宗 ティンティン

20 号館 8 階　宗研究室

テーマ:体験学習から学ぶ日中歴史文化の魅力

「授業の主旨・目的」

ゼミ内容:「なんでも深く研究すれば学問になる」。好奇心旺盛で日中の伝統芸能や歴史文化そして旅が大好きな学生を対象にしたい。場合によっては国内外での現地調査や文献調査も実施し、音楽人類学と歴史学の視点から歴史文化や民族地域に隠された多くの謎や文化暗号を学生と一緒に解読して行きたい。「体験学習」という手法を使いながら一人一人の個性を尊重しながらチームワークを作っていく。

目的:本演習では、文化人類学では最も重視する参与調査を実施しながら歴史資料研究或いは翻訳という手法で進める。論理的に語れる人間を育てることより、企画力と執行力そして柔軟的な思考を持つ国際社会に役に立つ人材を育てる事を目指している。

「授業計画」

演習 A は①紀元前から日中両国間どのような文化交流があったかについて中国社会科学院から出版された『日中文化交流史』の翻訳を通じて学習していく(翻訳アプリを使用)。②現地フィールドワークの一環としてチベット寺院「チャンバリン」を見学

演習 B では、①ゼミ学生がそれぞれ関心のあるテーマ(芸術・慣習・AI・体験など)を選び、要約やレジュメを作成する。演習では、担当者の発表後に全員で討論を行い、この発表を通して卒業論文のテーマを具体化していく。②日中文化交流の証として、「奈良正倉院展」および「平城宮跡」でのフィールドワークを実施し、事前の資料調査と現地調査の成果を発表する。③就職活動の際にアピールできる成果の一つとして、初心者でも受験可能な日本中国友好協会主催の「中国百科検定試験」を全員で受験する予定である。

これらの学習を通じて得られた知識・経験・データは、今後の就職活動や卒業論文の執筆において重要な糧となることが期待される。

「成績の評価方法と基準」

発表・討論への参加 30%、出席率 30%、現地フィールドワークの参加 40%で評価する。

ゼミ内での発表や討論、そして自らの参与調査に関する企画と参加などを評価基準とする。特別な理由がなく 3 回以上の欠席があると不合格になる。

「教科書」

特になし、その時に応じて参考資料を配布する。

「面接に際しての注意事項」

当演習の受講を希望する学生は面接の時**①どうしてこのゼミを希望するか？②自分が興味を持っている分野。③追求したい卒論のテーマなど、**面談の時、十分説明できるように準備してください。



★ **メールでの予約をお願いします。**

tingting@fsc.chubu.ac.jp

★ 一人 10 分～15 分の面談時間



